



All Japan Road Race Championship 2021

RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Motor Sports RT HARC-PRO. Media Infomation

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦 SUPERBIKE RACE in SUGO

宮城県・スポーツランド SUGO (1周=3.621154km)

5月22日(土): 公式予選・JP250 決勝

天候: 雨のち濃霧 コース: ウエット

5月23日(日): 決勝 天候: 曇り時々雨 コース: ハーフドライ

観客動員数: 6,100人 (2日間合計)

ST1000クラス #5 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

予選: 予選: 5番手 (タイム: 1分31秒237)

決勝: 5位

J-GP3クラス #3 成田 彬人

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 15番手 (タイム: 1分52秒325)

決勝: DNF

ST600クラス #35 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 21番手 (タイム: 1分34秒547)

決勝: 17位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 予選: 17番手 (インタークラス: 10番手) (タイム: 2分00秒644)

決勝: 中止

SPORTS LAND
SUGO



All Japan Road Race Championship 2021 RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



絶好調の榎戸育寛がトップ争いを繰り広げる 満身創痍の成田彬人は不運が重なる

全日本ロードレース選手権第3戦が宮城県・スポーツランドSUGOで行われた。第2戦鈴鹿は、JSB1000クラスのみの開催となっていたためSDG Motor Sports RT HARC-PRO. にとっては、今回が2021年シーズン2戦目のレースとなる。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

前週の5月11日～13日に事前公開テストが行われたが、J-GP3クラスを走る成田彬人が12日の2本目の走行で転倒。骨折はなかったが、右ヒザがえぐれて骨が見えてしまっているほどの負傷を負ってしまう。このため翌日の走行はキャンセル。どれだけ走れるか分からない状況でレースウィークを迎えていた。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

レースウィークは、初日、2日目と午後には濃い霧にサーキットが覆われてしまいスケジュールがキャンセルされてしまう。何とか、公式予選は、全クラス行われたが、土曜の午後には予定されていたMFJ CUP JP250とJSB1000クラスのレース1は中止となってしまう。

ケガの具合を見ながらペースを上げようとしていた成田は、金曜日の1本目で状態を見て、2本目でマシンセットをまとめていこうと思っていたが霧で中止となってしまふ。公式予選は、雨はほぼ止んでいたが路面はウエット。難しいコンディションの中、ケガの影響もあり15番手と不本意なポジションからスタートすることになっていた。



J-GP3 #3 Akitō Narita

ST1000クラス、ST600クラスは、ウエットパッチは残っていたものの、ほぼドライコンディション。ST1000クラスの榎戸育寛は、セッション終盤のアタック合戦に入ったところで早めにタイムを出しライバルを先行するが、終了間際に順位を落とし5番手で予選を終えた。ST600の千田は、ウエットからドライへの切り換えがうまくいかず予選21番手となったが、決勝に向けての課題はハッキリしており追い上げを誓っていた。

土曜日は、ST600の予選が終わるころに霧が出て来てしまい、その後のスケジュールは中止となる。JP250

の赤間清は、レースが中止となったため、予選はインタークラスで10番手となっていたため、ハーフポイントとなる3ポイントを獲得した。

日曜日は、朝方こそ霧が出ていたが、朝のウォームアップ走行が始まるころには晴れ、タイムスケジュール通りに進んでいった。



J-GP3 #3 Akitō Narita

この日、最初のレースとなったJ-GP3クラス。成田は、満身創痍ながら力走を見せポジションを上げていたが、4周目の4コーナーで接触転倒。無念のリタイアとなってしまふ。ジュニアチームの山田尚輝と小合真士もツインリンクもてぎとは勝手が違い今回は苦戦。2人でバトルを繰り広げ山田が10位、小合が11位でゴールした。



ST600 #35 Toshiaki Senda

ST600クラスの千田は、好スタートを見せポジションを上げると、レース序盤は5台の集団を引っ張る形となる。しかし中盤からペースを上げることができずポジションダウン。単独走行となっていく17位でチェッカーフラッグを受けている。

17周で争われたST1000クラス。榎戸は好スタートを決め、1コーナーで2番手に浮上。2周目に3番手に後退するが、トップグループにつけ周回を重ねていく。レース終盤に入り、トップは、少し離れていたが前をいくライダーをかわし2番手に上がる。そして残り4周を最後の力を振り絞りリスタートしようと思っていた矢先に問題が出て来てしまふ。榎戸は、その変化に必死に合わせようとするが、ペースを維持できずに無念の後退。5番手までポジションを落とし単独走行となってしまふ。そのまま5位でチェッカーフラッグを受けレースを終える結果となった。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

■榎戸育寛コメント

「いろいろな項目を事前テストで試すことができレースを想定してアベレージタイムを上げることができていました。レースウィークに入りウエットコンディションでも、以前テストで走っていてフィーリングがよかったので全く心配せず走ることができましたし、ベースセットは間違っていないことが確認できていました。予選では、開幕戦の決勝で悔しい思いをしたので、最初からスリックタイヤでコースインしました。ウエットパッチが残る中でスリックタイヤの使い方を学びながらタイムを上げて行きました。結果的に詰め切れませんでしたでしたが5番手と、まずまずの位置でした。決勝は、スタートが決まり2番手に上がり、想定したタイムで走ることができていたのですが、少し問題が出てしまい、その変化に合わせることができなかったのが敗因です。気持ちを切り換えて次戦はホームコースでもある筑波なので優勝目指して全力を尽くします」

■成田彬人コメント

「事前公開テスト1日目の2本目で転倒を喫してしまい右ヒザを負傷。骨折はなかったのですが、骨が見えるほどえぐれてしまっていました。今回のレースウィークも走行後に傷口が開いてしまい患部を処置してもらいながら走っていました。その影響で予選では下位に沈んでしまったことが、決勝の結果につながった要因になってしまいました。チームも頑張ってくれているので、次戦は万全の体制で、しっかり結果を残したいと思っています」

■千田俊輝コメント

「金曜日に初めてウエットコンディションで走ったのですがフィーリングはよくシングルに入れそうな手応えでしたが、予選は、ほぼドライになり、マシン面、ライディング面でのアジャストがうまく行かず下位に沈んでしまいました。その時点での問題点を決勝に向けてセットし直してレースに臨みました。スタートから3コーナーまで、かなり順位を上げることができ、集団を引っ張る形になっていたのですが、レース終盤はペースが落ちてしまい順位を落とし悔しい結果になってしまいましたが、今回はセッション全て走り切ることができ、いろいろ学ぶことができたので収穫のあるレースになりました」

■赤間 清コメント

「今回も走り始めからウエットコンディションでしたがフィーリングはよく、いい手応えがありました。予選では、ポジション取りが悪く、前のライダーに詰まってしまいました。間隔を空ければよかったのですが、タイヤを冷やしたくないという気持ちが強く、数周を無駄にってしまったのは反省点でした。次回の筑波ラウンドは、2レース制なので、いい状態で臨めるよう、しっかり準備したいと思っています」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで